

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200412		
法人名	株式会社 清華の森		
事業所名	グループホーム 清華の森		
所在地	佐賀県唐津市見借4749番地1		
自己評価作成日	平成31年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成31年2月25日	外部評価確定日	平成31年4月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホームの周りには目の前に広がる雑木林などの豊かな自然に囲まれており、季節の鳥の鳴き声や虫の声にも癒され、静かな環境の中にあります。ご利用者様どうし仲が良く、お互いを思いやり助け合おうとする姿がみられます。笑顔で居心地の良い環境を整え、ご利用者様、ご家族様の心のケアも行い、馴染みのある地域で、安心と信頼で皆様が心地よく過ごして頂ける様努めております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>唐津市街地より北西部の広域農道わきに建つ平屋建ての事業所である。広大な敷地に認知症対応型共同生活介護事業所2事業所と障害者施設が2棟建っている。運営者が経営していた直売所を整備し開設している。敷地内に唐津湾を一望できる高台があり、展望所が作られている。利用者の散策や夏の花火大会時は花火見物も行われ喜ばれている。消防訓練等は他の3施設と共同で行われ、夜勤の際も隣接するグループホームの職員で助け合うことが出来心強く感じられている。食事は施設内で調理されており、毎日の食事を楽しみにされている。手作りおやつ の提供等食事面の充実が利用者には好評な事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて、職員一同で理念を共有し確認している。 月に一回の職員会議でも再度確認、実践に繋がっている。	開設当初の管理者、施設長にて作成され、朝礼時や月に一度の職員勉強会で唱和され確認されている。特に言葉使いに気を付け、利用者の思いを尊重する支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	まだまだ、地域への行事などに参加することは少ないが、運営会議などで意見交換し、いろんな催事に参加したり、徐々に増えてきている。	地区に入会し区費を収めている。地区行事や清掃作業の連絡もあり、清掃作業には職員が交代で出ている。子供浮立等一年に一度の行事には全利用者、職員で参加している。しかし、普段の交流は近所に民家が無く、日常的な交流とまではなっていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭りごとなどにご利用様も参加し、顔を覚えて頂くなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	アドバイスや情報を頂いたり、ご家族様の要望などを基にサービス向上に活かしている。	運営推進会議は地区の区長や老人会会長、民生委員、行政職員、利用者家族数名にて会議が行われている。毎回実施日を決め、会議前には案内をすることで参加者が多く、活発な意見交換・情報交換の場になっている。不定期だが担当職員がグループホーム便りを発行し喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には運営会議に出席して頂き、運営報告、意見交換など行っている。必要に応じて電話などでも適切にアドバイスも頂いている。 月一回の介護相談員様の訪問時に、ご意見を頂いたりして、サービスの向上に繋げている。	行政職員の運営推進会議への参加もあり分からない事があればいつでも相談できる関係性が出来ている。介護相談員より、アドバイスを頂き、職員紹介を顔写真付きで玄関に掲示している。当日勤務職員はホワイトボードに掲示している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で全員、虐待についての勉強会を行っている。玄関の施錠、ベッド柵での拘束など具体的に話し合いをして、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修に参加した職員が全体勉強会にて発表し身体拘束について周知を図っている。契約時に家族や本人へ事業所の方針として身体拘束を行わない様取り組んでいる事を説明している。利用者は自由に行動でき、職員は見守りを行っている。年4回全職員参加の委員会を開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修会に参加するようにしている。職員同志で、声を掛け合い注意するように心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまり学ぶことができていないが、必要に応じて支援していきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にはサービス内容、利用料金などきちんと説明を行い、理解、同意を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会に来られた際や、定期的に電話などで意見を頂いたりしている。またそれらは、運営推進会議などで報告している。	意見箱の設置はあるが今まで投函された事はない。家族とは電話で話をしたり、面会時はなるべく話をする様心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで、意見の出しやすい環境を作り、報告、連絡、相談を密に行うようにしている。また、時々個人面談を行い、出された意見などを反映させている。	毎月職員勉強会を開催、ほとんどの職員が参加している。施設長や管理者は職員が話しやすいよう普段から会話をもち、雰囲気づくりに努めている。出された意見や提案・要望は検討し業務に活かせるよう検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に個人面談をし、意見を取り入れ職場環境などの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修を受けるよう取り組んでいる。受けた研修は必ず職員勉強会で発表し共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し、2ヶ月に一回の研修に参加している。毎回違う職員に参加させ、交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度か面会し、ご本人様より要望、意見などを聞き取り、主治医などの適切なアドバイスを受け、意向にあったプランを作成。職員に周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と何度か面会し、要望、意見などを聞き取り、密に連絡を取り合い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族とご本人様の状態について話し合い、他のサービスが必要かなど一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに尊重しあい、ご利用者様と一緒に、出来る限りのことはやってみよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の希望などでご家族様と連絡を取ったり、ご家族様より要望、相談などがあれば、気軽に話せるような関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご親戚の面会は続いているが、ご友人や知人の面会は年々減ってこられている。ご自宅の近くにドライブに出かけたりなどの支援を行っている。	日常生活を通して生活歴やこれまでの人間関係の把握に努めている。数人ずつだが本人や家族の希望に沿って買い物、外出の支援を行っている。家族と一緒に外食をされる事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で行うレクリエーションをしたり、なるべくリビングにて、作業や食事ができるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡を取り合い、ご本人様の経過などを把握し、相談にものれるよう努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様の希望や思いは日々の関わり合いの中で把握するよう努めている。出来ない方はご家族からの希望やこれまでの生活をふり返りながら、個々にあったケアを心がけている。	職員は普段から利用者の支援の中で、本人の意向や思いを汲み取るよう努めている。担当職員が季節ごとの衣類の交換を行う等、家族への連絡にて家族との関係性も出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを入居時まで十分に聞き取り、情報収集している。入居後も聞き出せなかった情報を得たりしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の一日の生活の流れを把握し持っている力が十分に引き出せるように支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様・必要な関係者と十分な話し合いの上でケアを行っているが、必要時は再度話し合いご利用者様に適したケアが支援出来るように、常に話し合いの場が持てる様にしている。	施設長、管理者より本人、家族、職員で話し合い介護計画書を作成されている。一部整っていない書類が見受けられた。	今後介護サービス利用開始において、家族への説明、了承が確実に出来るよう書類の整備にも努めていただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や気づき等を記録や連絡ノートにわかりやすく残しケアの統一を図れるようにしており介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況は常に把握し可能な限り希望されるケアが出来るように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔から利用されている美容院や行きつけの店へ買い物に出かけたり、たまにだが地区の民生員等の訪問があっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向を尊重し希望される医療機関が利用できるようにご家族様、職員が連携し利用して頂いている。	利用者や家族の意向を大切にし、事業所の協力医への受診変更の他、入居前からの主治医の継続受診を支援している。通院は家族にお願いしているが、必要に応じ職員で対応する等柔軟に支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員とは常に連絡を密に図り報告している。体調の変化時や急変時には直ぐに連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書で情報を提供し入院先へは定期的に訪問し状態の把握に努め病院側とも情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの方針、ご本人様やご家族様の意向の話し合いを持ち、ご本人様の状況に合わせてその都度家族様も含め主治医や看護師との話し合いの場がもてる様にしている。	入居契約時に重度化した場合の対応について、終末期に関する指針の説明を行い署名捺印をいただいている。「看取り介護についての同意書」も準備されており今まで1名の看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時のマニュアルを作成し、発生時の対応について、看護師の指導のもと、話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練や防災訓練を行っている。消防署の立会いの下、通報、避難、消火の訓練を実施。また、職員会議などで、避難経路や屋外の避難場所などを、周知させている。	地元消防団に参加してもらい、利用者や隣接する障害者グループホームと合同で消防訓練、避難訓練を実施している。夜間想定訓練を行っているが実際に夜間に行った事はない。緊急時の連絡網の作成や、暗さの対応等夜間に行う事も必要と思われ検討される予定。今後は水、食品の備蓄も検討される。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴の際は必ず戸を閉め介助するようにしている。言葉かけに関しては、これまでの生活歴や性格を把握し、それぞれに合った対応を行っている。	同じ苗字の人が多くあるが、親しみやすいよう名前では呼んでいる。利用者本人の人格を尊重した言葉かけを行い、管理者は利用者本位のケアの大切さを伝えている。排泄や入浴時は特に他者の目に触れないよう十分配慮し、プライバシーの保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話などで顔の表情などを読み取り、こちらから声掛けなどを行い、どうしてほしいのかを引きだしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どうして欲しいのかを問いかけ、希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿って、美容室に出掛けたり、訪問理美容店に来てもらっている。化粧品や衣服などの買い物などの支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせて食事形態を変えている。好き嫌いを把握し代用食などを提供。出来る限り、野菜の皮をむいたり、切ったりなどしてもらっている。食器洗いなどもお手伝い頂いている。	献立は作っていないが、冷蔵庫や手元にある食材で毎食作っており、調理の際のにおいが漂い家庭的な環境である。個人個人の好みや嚥下状態に合わせ、食事の工夫を行っている。おやつをみんなで手作りしたり、食事が楽しみになる様支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量、水分量をチェックしている。嚥下状態に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、付添いにて口腔ケアをして頂いている。出来る限りご自身でやって頂くが、困難な場合は介助にてケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努めており、声掛け、誘導を行い、なるべくトイレでの排泄ができるよう支援している。	利用者それぞれの排泄状態に合わせ、紙パンツ、布パンツを使用。排泄の自立支援を心がけ日中はトイレでの排泄を基本に声かけや見守りを行っている。パット使用量の軽減と保清に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、リハビリ、体操などを毎日行っている。水分量にも気を配り、毎朝ヨーグルトを摂取して頂いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や、時間帯などはある程度決めているが、希望があれば、いつでも入れるように配慮している。	週に3回入浴出来るよう、浴室の準備を行っている。入浴時は職員二人介助にて支援し、嫌がられる方には次回入浴して頂く等、本人の希望に沿って支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ペースに合わせ、昼寝や就寝時間は自由にして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が皆様の薬について理解しており、服薬時には必ず職員二人で確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物支援や散歩など希望があればすぐ対応できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿ってドライブや、散歩、催事の参加など積極的にやっている。家族の方にも協力して頂き、外食など楽しまれている。	広大な敷地には多数の樹木や季節の花が咲き、小鳥の鳴く声が聞こえる。気候が良くなれば展望台まで散策をしたり、庭で食事やお茶を提供され喜ばれている。個人個人の希望に沿って買い物やドライブ等外出支援がされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があればご家族様と相談し所持して頂いている。買い物などではご自分で財布より支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話もいつでも出来るようにしている。手紙も職員がお預かりして、ポストに投函したり、郵便局へ出したりの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけを月替わりに行っている。花やみどりをリビング、玄関などに置いている。	自然豊かで小鳥の鳴き声や、リビングの広い窓から季節の移り変わりを感じる事が出来る。季節に応じた壁飾りが掲示され、行事等が行われる事で楽しい雰囲気や季節を感じる事が出来るよう支援されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを4脚置き、どこでも自由に座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅と同じように過ごせるよう、使い慣れた椅子や布団、タンスなどを使用している。	入居前に使用されていた寝具類を持参され、壁やタンスには家族の写真や小物類が飾ってあり自室と感ぜられるような工夫が行われている。普段使用しない衣類等は備え付けの押し入れにしまってあり居室はすっきりと片付いている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やトイレの表示などで環境を整備し、ご本人の出来る力を引きだし支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない